

図書館だより

令和4年10月号
葛城市立磐城小学校

神無月の「無」の由来は？ 神の不在なのか？

神無月は昔の暦の10月を指します。全国の神が出雲大社に集まるため、出雲以外では神が不在という意味で「無」を解釈する向きがありますが、疑問符が付きます。

「無(な)」は「無(の)」、つまり「神の月」とする説が有力のようです。

(毎日新聞2022年10月1日の朝刊、毎日ことばより)

なぜ神の月かというと、神聖な五穀を収穫し、神々にささげて感謝する大事な季節だからとされています。逆に島根県・出雲地方では古くから神無月を神在月と呼んでいるそうです。

秋の夜長のミステリー

夏の暑さも過ぎ、過ごしやすい季節になってきました。本を読むにもぴったりの季節です。今回は秋にぴったりのミステリーの本を紹介します。掲示板に図書員さんが考えた「ミステリークイズ」も出しています。君も解けるかな？

「おしりたんてい」シリーズ



レディーにやさしく、紳士で、どんなじけんもかいけつしてしまう、めいたんていです。

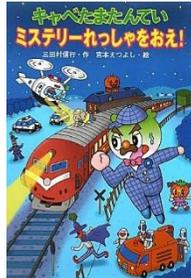
じょしゆのブラウンといっしょに、かずかずのなぞをと

きあかし、はんになをおいつめます。

はんになを、おいつめるときのひっさつわざは

……。

「キャベたまたんてい」シリーズ



みんなが大好きな食べ物ものをストーリーにからめ、キャベたまんていと、助手のトマトちゃんとお頭にバターをのせたじゃがバターくん、ダイコンけいぶや物知りなカボチャはかせ

が、力を合わせて大活躍！

「ぼくはめいたんてい」シリーズ



パンケーキが大好きな9歳の男の子、ネートが、探偵帽にトレンチコートという名探偵の恰好をして、個性的な仲間たちによって次々ともたらされる

謎を鮮やかに解決していきます。しかし捜査の途中で大好きなパンケーキのにおいがすると、思わず食べてしまうおちゃめな一面も。

「探偵・日暮旅人」シリーズ



幼い頃に視覚以外の感覚を無くし、代わりにそれ全ての感覚を目に宿し、目で「見る」ことができるようになった探偵、日暮旅人。音、匂い、味、感触、温度、重

さ、痛み。旅人は、目に見えないモノを“見る”ことで探し物をしている。

「お江戸の百太郎」シリーズ



花のお江戸に、大仏の千次という岡っ引きがすんでいました。この千次親分、捕りものの腕はさっぱり、でもそのぶん、むすこの百太郎がよくできた子で、おやじ顔まけ。寺子屋の師匠秋月先生をはじめ、友だちのお千賀ちゃんや寅吉と協力して、悪人を向こうにまわしての大捕りものを演じます。

「マリア探偵社」シリーズ



愛と正義に燃える、佐伯香（ニックネームはカオリン）、カオリンと探偵社の仲間、星将道(パソコンのエキスパート)、天童桂子(食べることが大好き)

き)、探偵社の社長、鎌田亀代

(元警察官、カオリンのおばさん)が、事件の謎を追います。

「名探偵コナン」シリーズ(小学館ジュニア文庫)



大人気コミックの小説化。「黒ずくめの男」に毒薬を飲まされ、小さくなってしまった高校生探偵の工藤新一。正体がバレないように江戸川コ

ナンと名乗り、幼なじみの毛利蘭と父親のヘボ探偵毛利小五郎の家に住んで、難事件を解決。コミックでは味わえない小説版です。

「3分間ミステリー」シリーズ



物語の違和感に気づけば、真の意味にたどり着ける……。物語の真の意味に気づけたときの快感。二度読み必至、病みつき間違いなしの、短編小説シリーズ。「お

やつ?」思ったところに、謎解きのヒントがあります。子どもはもちろん大人も楽しめる、どんでん返しストーリー！

